

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社 沙蔵		
事業所名	グループホーム花音		
所在地	八代郡氷川町宮原588番地2		
自己評価作成日	平成28年5月28日	評価結果市町村受理日	平成28年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成28年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症場などにより、他事業所での受け入れが困難な方をお預かりし、アセスメントしながら課題を分析すると共に介護、医療関連機関との連携を図りながら、ご利用者との信頼関係を築き、体調安定され、ホームに馴染んでいただけるよう支援をします。
 ・ホームを開設し11年目を迎え重度化が進む中、グループホーム2ユニットと認知デイが協力して「共助」の気持ちで大切に、また、ご家族に喜んで頂けるケアを目指しています。
 ・花音Ⅰ＝元気がよく喧嘩をされる場面も多く観られますが、普段は笑顔が絶えず、『涙あり笑いあり!』スタッフもご利用者も、まさに『アットホーム』な花音です。
 ・花音Ⅱ＝重度化が進む中、体調維持やしつかりとしたケアができるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・神社がある住宅街という環境にあり、日常的な散策や近隣の人との交流を支援されています。事業所周辺は地域の人々により花壇が設置され、利用者が一緒に手入れをされています。
 ・代表・管理者はじめ熱心に利用者や家族の思いを十分受けとめ、出来る限りのケアをしています。利用者の重度化や終末期に向けての職員スキルアップやサービスの質の向上について検討され、面談や自己評価・上司評価を取り入れ、人材育成が図られています。
 ・運営推進会議や家族会と共に、地域が必要とする事業所のあり方を検討されることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に必要とされる事業所」を目指しているが、お預かりしている入居者のケアをしっかり、関わることを大切にしています。	月1回のカンファレンスにて、職員間で理念の理解を促しています。理念の「家族」という言葉から利用者と家族の関係を大切にされており、24時間いつでも面会を受け入れ、家族にその旨を伝える努力がされています。	日々のケアの中で、理念が反映されている事例を発表し、話し合う場を設けられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の役員や「いきいきサロン」のお世話をすることで、地域の方が気軽に立ち寄れる場所になっている。	利用者は散歩において地域の人と挨拶を交わしたり、窓越しに会話しています。月1回のいきいきサロンでは、代表が20数名の集まりをお世話されています。管理者は役員として地域の広報誌作りに携わっています。	地域の方が事業所のイベントに参加されたり、気軽に来訪されお茶を楽しむなどの日常的な交流がより増える取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員のご家族をお預かりしたことで、情報を共有でき、地域の高齢者事情の把握ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地震を想定した避難訓練等、推進委員に参加して頂くなど地域やホームの課題についてご意見戴いている。	運営推進会議のメンバーである地域の自治会長や民生委員は、高齢者を抱える家族でもあることから、高齢化や介護に関する相談を受ける場にもなっています。	地震避難訓練に際し、地域の方々から支援の要望を尋ねられたそうです。地域からの声を運営推進会議の議題としてあげ、更に活性化することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	氷川町、八代市との情報交換を定期的に行いながら、必要な相談事や報告を実施している。	運営推進会議、定期的な報告や相談の他、いきいきサロンへの関わりもあり、市町村担当者との良好な協力関係が築かれています。事業所から積極的に情報の共有が図られています。	市町村担当者との連携を更に進めて、事業所の取り組みや課題についての情報発信を積極的に図られてはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者であり管理者の自宅がホーム2階にあることから、必要時は、いつでも駆けつけ対応でき、花音において虐待、拘束のないケアの取り組みが行われている。	利用者の身体能力の変化に合わせ、居間ではソファから肘付の椅子に変更されています。また、外部研修に参加したスタッフがレポート作成後カンファレンス時に発表し、知識の向上と共有を図っています。	学んだことを活かし、日々のケアの具体的な行動になるために、職員主導の意見交換が行われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は毎日、朝のミーティングに出席すると共に、ご利用者に異変がないかの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の補佐人をされている方に定期にお会いしてアドバイスなど頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定があった場合、説明と共に書面での同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	課題が発生した場合、関係機関の助言等も頂きながら、ご家族に報告し、できるだけ速やかに問題解決に向けた対応を図っている。	玄関に意見箱が設置されています。家族の面会時には、管理者から声かけ尋ねていますが、なかなか具体的な意見や要望は出ていないとのことです。	アンケート実施、家族会や意見箱設置場所の工夫するなど、意見や要望を言いやすい環境づくりを進めるとよいでしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員体制が一変したことをきっかけに、職員の意見を聞く機会を設け、できるだけ速やかに回答するなど、職員の疑問等をそのままにしないように努めている。	管理者から声をかけ話す機会を持つ努力がされています。定期的な自己評価と上司評価と個人面談も行われており、希望による資格取得やスキルアップについて勤務体制の支援を検討がされています。	意見や希望をもとに支援体制の整備が進むことで、スタッフの成長につながり、活発な意見や提案が運営に活かされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疑問や意見を聞く機会を設けると共に、必要時は労務士と直接話ができるように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場における社会人としてのマナーや協調を基本として、働きながらのトレーニングを促しており、それがケアに反映することを学んでほしい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内のデイや花音Ⅰ、Ⅱの職員が「共助」の精神を大切にできるよう、普段から指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	大切なご家族をホームにお預けされることで、ご本人にとって「なぜここで暮らすのがいいのか」をしっかりとご理解されるように、丁寧にお話しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年、2月入居されたご利用者家族と共に、症状別に必要な医療機関に出向き、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化から体調を壊されたご利用者にとって 一時入院すべきか、通院で様子を観るか、専門医に相談しDrの指示に従い対応するなど、ご本人に必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のように口論や喧嘩が観られるも、普段は笑顔で仲良く過ごされている様子が微笑ましい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ないご利用者には、家族に成り代わり、「母さん、元気だったか～」の声掛けで喜んで頂いていますので、たまにご家族が面会に来られても「よう来たね」と迎えてくれます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家で飼っていた犬や猫。2年前から飼っている花音のペット犬「クッキー」と触れ合うご利用者が増え、認知症状が改善している。	知人の来訪を受け入れ、交流継続の支援をされています。自宅へ一時的に帰りたいという要望に対し、家族との調整がつかず実現しないときは、職員が自宅前まで同行して納得して頂いたケースもありました。	家族、知人、友人を巻き込んだ更なる支援が広がる取り組みを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちぐはぐでもいい。利用者同士が地域の話題で盛り上がるのが、一番理想的だと感じます。そんな関係性を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前に亡くなられたご利用者の家族に、今でも賀状を送ったり、命日に訪問したり、出合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フォーマル、インフォーマルのネットワークの中で相談、協力を得ることで、課題の改善が見られたり、本人や家族に喜んで頂いたりすることがあります。	摂食が困難な利用者のケアで、おやつメニューの工夫、観察を中心に声かけなどの関わりから改善した事例があります。きめ細やかに利用者と向き合う努力がされています。	今後も利用者本位の視点に立って意向を把握され、必要に応じて専門家の協力を得て、外部機関との連携へ発展することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等、できるだけ情報を頂き、行動の背景に何があるのか、心情を理解できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	限られた時間の中で、ひとりひとりの利用者との信頼関係ができていくには、言葉だけでは築けない、日々の積み重ねと温かい気持ちが必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	花音に入所され11年目の方がおられるが、当時と比べ、殆ど変らぬ状態で過ごされている。そんな、ホームで元気に暮らして頂く為のプランがひとりでも多くできればいいと思います。毎月、スタッフ(担当制)とモニタリングし話合っています。	6か月ごとの計画見直し時には利用者・家族の思いや要望を尋ね、プランに反映できるようその都度確認をされています。要望によって家族の同席を促す場合もあります。	スタッフによるモニタリングをより活かし、利用者個別に合わせた具体的なケアの行動に落とし込んだ介護計画が作成できるよう、書式を含めた工夫をされてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日関わっているスタッフの気付きに勝るものはないと思います。これからも温かい気持ちで接してくれる職員の意見を大切にプランに反映できるように努めたいと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本、受診は家族にお願いしているが、体調不安定時や課題がある場合は、事業所職員が付き添い、情報の共有と共にDrの指示を仰ぎ、改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時は、内科、皮膚科、歯科、リハビリの訪問系受診を利用し、速やかな対応を心がけている。また、理容はお店の方の送迎や散髪後の焙煎コーヒーサービスで利用者も喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	数名の利用者の方は、かかりつけ医に往診して頂き、Drの協力が得られている。	定期受診は家族付き添いが基本ですが、身体状況によっては往診、緊急時などは家族の了解のもとにスタッフが付き添い、柔軟な対応がされています。医師との連絡も連絡ノートなどで、連携が図られています。	経年に伴う利用者個々の変化への対応を含め、今後も継続して支援と医療との連携を進められることを望みます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームに准看護師1名が在籍、隣のデイサービスに正看護師1名が在籍に必要な応じ連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院他、入院時は病院側より早期退院の要望が多く、基本、いつでも退院復帰の要望を受け入れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に終末ケアについて段階を追ってご家族と話し合っている。また、正看護師が事業所の職員として在籍しているので、今後、重度化や終末期に向けた指針について検討していきたいと思う。	入所時から利用者の変化に応じてご家族とは話し合いを行っています。利用開設当初に数名の看取りを経験しましたが、近年は行っていません。利用者本人とご家族の要望がある場合に伝えられるように、新たに事業所としての体制を検討を始めています。	利用者の高齢化とともに家族の要望に沿った対応が求められます。スタッフの育成を含めた事業所の体制作りと、医療や看護をはじめ関係各所との協力、連携が図られることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者と速やかに連携がとれている。また、今後、看護師の元、応急手当や緊急時の対応について学ぶ機会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熊本地震の発生により、早急に地震想定による避難訓練を実施した。その際には、行政職員や地域の区長、民生委員にも参加して頂き、話合うことができた。	火災訓練は年2回実施されています。地震発生後、地域の協力も得て訓練を実施し、利用者の反応と職員の対応について、問題点や課題が明らかになったようです。	職員参画による事業所内での課題解決と同時に、より地域の人々に避難時での効果的な協力が得られるよう、利用者の保護を目的としたツール等を整えられるとよいでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレであることが理解できない方、トイレの理解はあってもズボンの上げ下げや座り方が解らない方、その他、性格など、ひとりひとりの状況を的確に把握した対応ができるように配慮している。	事業所としては、利用者個人を尊重することを大切にするため、必ずお名前に「さん」づけで呼ぶことを職員間で徹底されています。親しさの延長線上で例外的なケースもあり、スタッフ個別に指導を行っています。	職員間で個人の尊厳やプライバシーの尊重等について、理解を進めると同時に、各利用者に合わせての尊重の仕方、プライバシーの保護についての話し合いを持たれてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「職員の都合に合わせてようとしているオーラを出していませんか？」と先月の会議で話し合いました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が元気で、のびのびと暮らして頂きたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「自分が着るならこれ！」という気持ちでご利用者の服も選べる配慮を大切にしたいと思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつまでも自分の役割として片付けを手伝ってくれるご利用者が数名いらっしゃいます。ひとりひとりの気持ちをありがたく、手伝って頂けるようにしたいと苦慮することもあります。	職員と利用者が一緒にテーブルにて食事をされ、一体となって楽しむ姿勢が現れています。洗った食器を拭く、野菜を切るなどの食事の下ごしらえを利用者が楽しんで行う姿が見られました。	2ユニットの利点を活かし協力しての食材調達や調理の工夫をし、日々のメニュー作成や季節感の演出等に取り組みられてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	2年前には食事の拒否があるご利用者が1名いらっしゃり、深刻な課題でしたが、現在は時間かかるも全量摂取されています。信頼関係が築けた証だと思います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士の資格者1名在籍しており、口腔ケアの重要性を感じ対応しています。必要に応じ訪問歯科も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮した声掛けが難しいと思うことが時々あります。「おしっこ」と大きい声で言うことで理解されるご利用者もいらっしやり、意味があつての言葉かけをしています。	現在の利用者で6名が入所以降、おむつから布パンツへ移行しています。個別に身体状況や性格を見極めながらの支援を行っており、失敗による着替えも自室へさり気ない誘導を行うよう心掛けています。	大きな声でなければ反応されない利用者本人と周囲の利用者、双方にとって不快にならないようなトイレ誘導、声のかけ方など工夫を重ねられることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活のサイクルや適度な活動、水分量など、しっかりと支援すると共に、ケア観察し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	基本、日中に入浴して頂いているが、拒否がある場合には、夕食後に入って頂くことがあります。	一日おきに入浴、必要に応じてシャワー浴も組み合わせています。季節湯も提供されています。実際の声かけも、利用者本人のペースを尊重して穏やかに行われていました。	より日常の入浴を楽しむために、利用者やご家族に生活歴や入浴剤、シャンプーなど好みなどの聴き取りを行う取り組みをされてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や寝具、衣類は環境に合わせ、こまめに調節するようにしている。冷暖房はできるだけ自然で過ごしやすい間接風で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があつた時は、確実に申し送りを行い、誤薬防止に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士の井戸端会議風おしゃべりでストレス発散して頂くと共に、スタッフは楽しみを共有しアットホームな関わりができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい日は、できるだけ外気浴をして気分転換を図っている。大人数で行くことはあまり無いが、季節に応じたお出かけは努めて実施できるようにしている。	目前に神社があり日常にお参りや散歩のほか、衣類の買い替えなどの希望に応え、お出かけの支援がされています。事業所の行事としての季節のお出かけ以外に、家族に伴われての個人的な外出も行われています。	地域のお出かけボランティアを募るなど、協力体制を広げながら支援が継続されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を少し持っているとお心される方が数名おられ、時々、神社に賽銭をあげられることもある程度。洋服店にスタッフが一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望時の電話ではなく、「元気にしているよ」の家族に喜んで頂ける電話の支援は嬉しいと思い、試みる機会を作りたいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットの鳴き声で地域に迷惑をかけないように目隠しのシートを張り、ご利用者の楽しみにしているペット犬「クッキー」との触れ合いを支援している。	ユニットを繋ぐ渡り廊下横にペット犬がおり、利用者が触れ合うことができるようになっています。各ユニットとも外の景色が見え、腰かけて一人で過ごせる空間があります。個室に繋がる廊下には、地域の方々の手による絵画が展示されています。	日中はほとんどの利用者が共用部分で過ごされています。心身の活力を引き出すため、個別の活動を支援するような空間作りに取り組みされるよう望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下からの花や神社、山の景色など、目の保養をしながら、ご利用者同士が団欒を過ごす場面がよく観られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みに応じ、馴染みの物を沢山飾られている利用者の方もおられる。基本、安全に配慮したレイアウトに配慮している。	家族の写真のほか、使い慣れた鏡台や筆筒が持ち込まれ、利用者のこれまでの生活を感じさせるお部屋がある一方、個人の好みでしょうか、生活感の少ないお部屋もあります。	居室による差が利用者の嗜好の差であるのであればよいでしょう。利用者や家族とのさらなる話し合いを進めていかれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本、障害となる物はあまり置かないようにして、転倒防止に努めている		